

今後の羅臼湖部会のあり方について

1. 今後のあり方について

- 「知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議 羅臼湖部会」は、平成 22 年度から 3 カ年にわたり検討を行い、羅臼湖の望ましいあり方、歩道の付替えルートや工法、維持管理体制、利用のルール、トイレ対策等に関する検討を進めてきた。
- 3 カ年の検討において、主要な検討課題について一定の合意形成を得ることができ、議論の結果に基づき歩道の工事実施等、さまざまな対策についても進展しているところ。
- 羅臼湖部会は今回の会議で解散することとし、次年度以降は「知床世界遺産施設等運営協議会 羅臼湖歩道維持管理部会」において維持管理を進めることとしたい。
- なお、今後の植生の状況や利用者の動向等を踏まえ、検討すべき課題が発生した場合には、再度羅臼湖部会を設置し、必要な議論や合意形成を行うこととする。その場合、「知床世界自然遺産地域 適正利用・エコツーリズム検討会議」において、知床エコツーリズム戦略に基づく提案により部会を設置することを基本とする。また、以下に示す項目については、関係者で継続して検討を進めることとする。

2. 関係機関が継続して検討すべき課題

- 望ましいトイレ対策
- 知床峠からの歩道の新設
- 適切な利用のコントロール
- 効果的な靴洗い場の設置